

#### 4 今後の展開プロセス（見込み）

環境改善活動の持続的な展開を可能とする「緩やかな連携」として「プラットフォーム」形成を模索します。

個々の団体等がそれぞれに課題へ取り組み【現状】

小田原の環境課題の全体像を共通認識することに取り組む（平成22年度）。

連携・協調することで個々の課題への取り組む地域力増大化

実証事業（モデル）事業の実践を通じて検証する（平成22年度）。

つなぐための「プラットフォーム」形成による情報の共有化

仕組みの骨格づくりのための課題を検証する（平成22年度仮説の設定）。

地域ブランドしての情報発信

仕組みの確立と情報の発信（目指す将来像）。